

国土幹線道路部会 中間とりまとめ(R2. 9. 25)のポイント

1. 国土幹線道路を取り巻く状況

(1)新型コロナウイルス感染症の拡大により新たに顕在化した課題・生活様式の変化

- ・日常的な社会活動における感染症対策の必要性の顕在化
- ・安定的な物流の確保や道路管理の重要性と課題の再認識
- ・感染症に対して大都市圏への機能の集中が有するリスクの認識
- ・道路システムのデジタル化の遅れの再認識
- ・社会全体の移動の変化を促す有効な取組

(2)災害の激甚化・頻発化、利用者ニーズの多様化など持続可能性に係る構造的課題

- ・自然災害の激甚化・頻発化や大規模地震災害の発生リスクの高まり
- ・老朽化の進展
- ・道路利活用における生産性向上の必要性
- ・国土幹線道路の役割に応じた的確な維持管理の必要性

2. ポストコロナ時代の「新たな日常」を支える国土幹線道路が目指すべき姿

(i) 平常時・非常時を問わず機能を失わない
安全・安心な道路 (Safe)

(ii) 道路ユーザー等の生産性・快適性が飛躍的に向上する**スマートな道路 (Smart)**

(iii) 社会環境の変化やインフラの老朽化に対応できる**持続可能な道路 (Sustainable)**

3. ポストコロナ時代を見据えて加速すべき具体的な取組

(1)「新たな日常」の原動力となる「道路システムのDX※」の推進

※DX: デジタルトランスフォーメーション

道路利用サービスの質を高め、国民生活や経済活動の生産性を向上するため、以下の基本方針のもと、道路システムのDXを推進する

【基本方針】

- ・道路利用の障害となる様々な事象を早期発見・早期処理する
- ・施工や維持管理作業などの徹底した自動化、無人化を図る
- ・手続きや支払いはオンライン化、キャッシュレス化・タッチレス化する
- ・道路のビッグデータを収集・蓄積、フル活用して、社会に還元する

- IT技術・新技術の総動員による高レベルの道路インフラサービスの提供
- 行政手続きのデジタル化・スマート化による社会経済活動の生産性の飛躍的向上
- 高速道路等のキャッシュレス化、タッチレス化の早期実現
- これらを支えるデータプラットフォームの構築と多方面への活用

(2)ポストコロナ時代における道路を賢く利活用する取組の推進

- 物流事業者・バス事業者等が活動しやすい道路環境の実現
- 使いやすい国土幹線道路の実現による観光振興
- 人と環境にやさしい道路利活用の実現

(3)あらゆる取組を支えるネットワーク機能の確保

- 強靱で信頼性の高いネットワークの構築による安全・安心な社会の実現
～災害時に「被災する道路」から「救援する強靱道路」へ転換～
- 多核連携型の国づくりを可能とする道路ネットワークの実現

4. 今後速やかに検討すべき課題

～持続可能な高速道路システムの構築に向けて～

- (1)これまでの新たな料金体系の導入、更新事業の実施に対する評価
- (2)自動運転時代、ポストコロナ時代の高速道路の将来像の具体化とロードマップの作成
- (3)社会・経済状況に応じた機動的な料金、利用者重視の料金の推進
- (4)(1)から(3)を踏まえた、安定的な維持管理・更新・機能強化等による高いサービス水準を維持するために必要なシステムのあり方